

令和元年度こんにやく原料需給実績

(単位:精粉20kg/袋)

項目 年度(R元.11~R2.10)	需要量 (消費量)	供給量					期末在荷量
		期初在荷量	国内生産量		輸入量	供給量合計	
			生産量	春切り量			
計算式	a=f-g	b:前年実績	c:実績	d:前年並	e:実績	f=b+c+d+e	g:注2参照
原料(国内・輸入)数量実績 (前年度実績)	235,000	216,800	260,200	5,000	4,500	486,600	251,600
	256,100	212,400	246,100	5,000	9,400	472,900	216,800
製品 輸入数量実績 (前年度実績)	19,700	0	0	0	19,700	19,700	0
	23,700	0	0	0	23,700	23,700	0
合計 (前年度実績)	254,700	216,800	260,200	5,000	24,300	506,300	251,600
	279,800	212,400	246,100	5,000	33,100	496,600	216,800
前年比(%)	91.0%	102.1%	105.7%	100.0%	73.4%	102.0%	116.1%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおり。なお、算出方法は各年度に必要な見直しを行い21年度まで遡って再計算しているため過去の発表数値とは連続しない。

- ①原料需要量は、製造業者のサンプル調査より求めた買入量比使用率を、製造業者買入量推計値に乗じて235,000袋とした。
- ②期初在荷量は、⑥と同様の方法で算出したH30年度の期末在荷量216,800袋とした。
- ③生産量は、令和元年産生産量(59,100トン)から算出(59,100×1,000×歩留(8.806%)÷20kg=260,221)し、260,200袋とした。
- ④春切り量は、前年度需給計画とほぼ同じ5,000袋とした。
- ⑤原料輸入量は、1次関税枠(38.2トン)及び2次関税枠(52.4トン)の輸入量(90.6トン)から算出(90.6×1,000÷20kg=4530袋)し、4,500袋とした。
- ⑥期末在荷量は、供給量合計(486,600袋)から需要量(235,000袋)を引いて251,600袋とした。
また参考資料No.2にあるように在荷量の増減を計算することによっても同様に251,600袋となる。
- ⑦製品輸入数量は、輸入量(13,026トン)から、精粉換算(製品倍率33倍)で算出(13,026×1,000÷33÷20kg=19,737袋)し、19,700袋とした。